

2-7-4 十勝東部森林管理署

表 2-7-4 の 20 調査地について記載した。

表 2-7-4 十勝東部森林管理署の調査地一覧

No	エリア プロット	SPUE 2009	SPUE 累積	地形	林相	林床植生	毎木 区数	稚樹 区数	樹皮剥ぎ		食痕率		
									小径 木	大径 木	下 枝	稚 樹	サ サ
56	十勝東01	3.2	2.7	山地斜面	広葉樹林(オヒョウ-ハルニレ)	クマイザサ	1	4	5%	11%	27%	13%	15%
57	十勝東02	5.9	3.9	平地	広葉樹林(ハルニレーヤチダモ)	ミヤコザサ	2	4	33%	6%	40%	70%	5%
58	十勝東03	5.5	4.9	山地斜面	針広混交林	クマイザサ	1	1	4%	3%	6%	-	0%
59	十勝東04	7.3	4.9	平地	広葉樹林(ヤチダモ-ハルニレ)	エゾイラクサ	1	1	14%	29%	36%	62%	0%
60	十勝東05	2.2	3.1	平地	針広混交林	クマイザサ	2	1	50%	18%	0%	96%	47%
61	十勝東06	13.8	4.6	平地	広葉樹林(ハルニレーヤチダモ)	ミヤコザサ	1	2	60%	26%	29%	72%	0%
62	十勝東07	7.8	4.1	平地	針広混交林	クマイザサ	1	4	18%	0%	18%	20%	5%
63	十勝東08	7.5	3.6	平地	針広混交林	クマイザサ	2	4	0%	0%	14%	40%	20%
64	十勝東09	5.0	4.0	斜面	溪畔林	クマイザサ	2	2	29%	7%	39%	60%	95%
65	十勝東10	5.7	5.7	平地	広葉樹林(ハルニレーヤチダモ)	ミヤコザサ	1	4	32%	20%	36%	93%	0%
66	十勝東11	3.7	4.1	平地	針広混交林	ミヤコザサ	1	1	0%	5%	0%	-	0%
67	十勝東12	3.6	5.1	山地斜面	針広混交林	オシダ	2	4	0%	11%	14%	50%	0%
68	十勝東13	8.2	3.8	山地斜面	針広混交林	アキタブキ	2	4	17%	4%	53%	###	0%
69	十勝東14	3.8	5.0	斜面	広葉樹林	ミヤコザサ	1	3	6%	0%	27%	38%	93%
70	十勝東15	7.9	5.9	山地斜面	広葉樹林(エゾイタヤ-シナノキ)	ミヤコザサ	1	2	14%	19%	28%	26%	0%
71	十勝東16	7.9	5.1	山地斜面	広葉樹林(サワシバ-ヤマモミジ)	フッキソウ	1	4	45%	4%	10%	45%	6%
72	十勝東17	12.2	5.1	平地	広葉樹林(ハルニレーヤチダモ)	クサソテツ	2	4	33%	17%	8%	82%	0%
73	十勝東18	8.9	4.9	山地斜面	広葉樹林(アサダ-ハシドイ)	ミヤコザサ	1	4	5%	2%	6%	26%	0%
74	十勝東19	5.0	4.7	平地	広葉樹林(ハルニレーヤチダモ)	クサソテツ	2	4	25%	37%	47%	-	0%
75	十勝東20	2.8	4.2	山地尾根	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ	1	1	0%	0%	10%	7%	0%

十勝東部01の結果概況

地区名:TE01陸別

1104林班り小班

7月10日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(オヒョウ・ハルニレ)	山地斜面	南東	1	4	2009年 3.2	累積 2.7	個体・鳴き声
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	54 /200㎡	24.9 m ² /ha	26 /200㎡ 食痕: 7/26 27%		19 /200㎡	5/53 9%(6%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	15 /200㎡	4/30 13%				20	0.76 ・0.02(0.3)・ 0.01

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
オヒョウ	3	1,384	2	
ヤチダモ	5	1,031	2	
トドマツ	1	946	1	
ハシドイ	36	881	17	5
ミズナラ	1	311		
全体	54	4,982	27	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	20	2
ハシドイ	4	2
エゾイタヤ	3	
ミズナラ	3	
エゾマツ	2	
全体	32	4

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.740	77.0	95.8	○
ヨブスマソウ	13	0.009	0.8	21.4	
フッキソウ	17	0.008	3.1	22.6	
ハシドイ	5	0.001	0.4	37.8	○
オシダ	2	0.001	0.5	22.0	
全体		0.764	77.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部01は、鹿山川上林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地斜面で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はオヒョウやヤチダモなどが見られる。林内では、個体の目視、鳴き声を確認している。可食種のうち下枝がある立木はハシドイを中心に26本/200㎡あり、食痕27%に見られる。樹皮剥ぎは古いものも含めると9%を占める。

稚樹はシウリザクラを中心に15本/200㎡見られ、食痕は13%見られる。林床は、全体被度が77.5%を占め、クマイザサが優占し、密生する。食痕はクマイザサとハシドイに見られ、ササ類食痕率は15%を占める。可食種の現存量は0.01であり、忌避種は0.02といずれも小さい。下枝、稚樹、林床の食痕が確認され、新規の樹皮剥ぎが確認されることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

十勝東部02の結果概況

地区名:TE01陸別

1131林班い小班

7月10日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林(ハルニレーヤチダモ)	平地	-	2	4	2009年	5.9	累積 3.9	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	39 /200㎡	43.4 ㎡/ha	13 /200㎡	食痕: 5/13 40%	11.5 /200㎡	11/74	15%(14%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	5 /200㎡	7/10	70%				17	78%・82.8・5%

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ハルニレ	14	5,998	3	
エゾマツ	1	4,477		
ヤチダモ	6	4,157		
ハシドイ	48	1,450	18	11
エゾイタヤ	5	939	3	
全体	77	17,344	26	11

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハシドイ	10	7
全体	10	7

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
ミヤコザサ	20	0.642	77.5	82.8	○
オシダ	3	0.033	5.0	62.3	
エゾトリカブト	1	0.002	0.3	90.0	○
フッキソウ	6	0.001	0.5	17.8	
ノリウツギ	1	0.001	0.3	31.0	
全体		0.682	79.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部02は、勲根別林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。平地で、樹冠はハルニレが優占し、亜高木層ではハシドイが優占する。広葉樹で下枝がある立木はハシドイを中心に13本/200㎡で、食痕は40%に見られる。樹皮剥ぎはハシドイを中心に新規のもので14%、古いものも含めると15%を占める。

稚樹はハシドイのみで5本/200㎡が生育し、70%に食痕が見られる。林床は、全体被度が79.0%で、ミヤコザサが優占する。他に、忌避種とされるオシダやエゾトリカブト、フッキソウが散生する。食痕はミヤコザサとエゾトリカブトに見られ、ササ類食痕率は5%を占める。ササ類を除く可食種の現存量は0.01未満であり、忌避種も0.04とわずかである。下枝、稚樹の食痕率、新規の樹皮剥ぎ率の高さから、全体にエゾシカの被食による影響が累積している可能性があると思われる。

十勝東部03の結果概況

地区名:TE01陸別

1170林班へ小班

7月16日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山地斜面	北東	1	1	2009年 5.5	累積 4.9	個体
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	64 /200㎡	53.5 ㎡/ha	18 /200㎡	食痕: 1/18	6%	10 /200㎡	1/17	6%(6%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	0 /200㎡	0/0	-				24	71%・81.7%・0%

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ダケカンバ	18	4,083	6	
トドマツ	10	3,772	7	
エゾマツ	17	1,374	16	1
ウダイカンバ	1	616		
エゾノバッコヤナギ	5	584	2	
全体	64	10,695	42	2

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
アカドマツ	10	
トドマツ	8	
エゾマツ	7	
アカエゾマツ	3	
全体	28	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	19	0.613	70.5	81.7	
アカエゾマツ	1	0.031	2.5	122.0	
アカドマツ	3	0.030	4.0	71.0	
コヨウラクツツジ	4	0.004	1.0	28.8	
オシダ	2	0.003	1.0	31.0	
全体		0.691	82.8		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部03は、新斗満林道から分岐する作業道沿いに位置する針広混交林に設定している。山地斜面で、針葉樹はトドマツやエゾマツ、広葉樹はダケカンバやウダイカンバなどが見られる。林内では個体の目視を確認している。下枝がある立木はエゾノバッコヤナギなど18本/200㎡で、食痕は6%に見られる。樹皮剥ぎは全て新規で、6%を占める。

稚樹はすべてマツ類で、本数密度の対象外である。林床は、全体被度が82.8%で、クマイザサが優占し、密生する。食痕は確認されなかった。可食種の現存量は0.01で、忌避種は7倍程である。下枝の食痕が確認され、新規の樹皮剥ぎも見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

十勝東部04の結果概況

地区名:TE01陸別

1180林班ほ小班

7月16日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ヤチダモ・ハルニレ)	平地	-	1	1	2009年 7.3	累積 4.9	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	28 /200㎡	50.3 ㎡/ha	11 /200㎡ 食痕: 4/11 36%		2 /200㎡	5/20 25%(5%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	146 /200㎡	45/73 62%			30 0% - -		0.74 ・0.48(0.6)・ 0.26

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ケヤマハンノキ	8	5,875	5	1
ヤチダモ	1	2,367		
オノエヤナギ	2	982	1	
エゾイタヤ	8	389	5	3
ハルニレ	1	308		1
全体	28	10,068	19	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤチダモ	53	33
エゾイタヤ	11	7
ハシドイ	6	5
オヒョウ	2	
ミヤマザクラ	1	1
全体	73	46

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
エゾイラクサ	15	0.249	20.8	106.3	
アキタブキ	5	0.086	9.0	97.0	
クサソテツ	8	0.082	10.0	80.9	
フッキソウ	15	0.068	29.0	22.3	
ヤチダモ	6	0.057	10.5	36.3	○
全体		0.739	94.8		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部04は、奥斗満林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。平地で、ケヤマハンノキやヤチダモなどが見られる。下枝がある立木はケヤマハンノキやヤチダモなど 11 本/200 ㎡あり、食痕は 36%に見られる。樹皮剥ぎはエゾイタヤを中心に 25%に見られる。

稚樹は、ヤチダモが多く、146 本/200 ㎡と高密度に生育し、食痕もヤチダモやエゾイタヤなど 62%を占め、高い値である。林床は、全体被度が 94.8%で、ササ類は見られない。忌避種であるエゾイラクサやクサソテツ、フッキソウが目立ち、食痕はヤチダモに見られる。可食種の現存量が 0.26 であり、忌避種の半分ほどである。下枝、稚樹の食痕率が高く、新規の樹皮剥ぎ見られ、忌避種の割合が高いことから、全体にエゾシカの被食による影響が強くなってきていると思われる。

十勝東部05の結果概況

地区名:TE02芽登

386林班ろ小班

7月07日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	平地	-	2	1	2009年 2.2	累積 3.1	糞・足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	18 /200㎡	36.3 ㎡/ha	2 /200㎡ 食痕: 0/2 0%		0 /200㎡	1/24 4%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	110 /200㎡	53/55 96%		25	25%・49.3・47%	0.24・0.08(0.3)・0.02	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
シナノキ	11	3,629	1	
トドマツ	8	3,607	3	5
ケヤマハンノキ	4	2,624		
シウリザクラ	5	1,540	1	1
エゾマツ	2	1,385	1	1
全体	36	14,521	8	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	55	53
エゾマツ	4	
トドマツ	4	1

全体	63	54
----	----	----

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	15	0.139	25.3	49.3	○
エゾイラクサ	16	0.068	13.6	44.3	○
シウリザクラ	12	0.012	2.0	43.7	○
レンブクソウ	17	0.007	9.4	7.3	
トドマツ	9	0.006	0.5	19.1	
全体		0.243	55.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部05は、美利別林道沿いに位置する針広混交林に設定している。平地で、針葉樹はトドマツやエゾマツ、広葉樹はシナノキやケヤマハンノキが見られる。林内には、シカの糞、足跡、シカ道を確認している。可食種のうち下枝がある立木はシナノキなど2本/200㎡と少なく、食痕は確認されなかった。樹皮剥ぎは古いもののみで、4%を占める。

稚樹はシウリザクラが多く、110本/200㎡で高密度であり、食痕もシウリザクラを中心に96%を占め、高い割合で被食されている。林床は、全体被度が55.5%で、クマイザサが25%ほどを占め、優占し、次いで忌避種とされるエゾイラクサが13%程を占める。食痕は、クマイザサやエゾイラクサ、シウリザクラに見られる。ササを除く現存量は、可食種は0.02で、忌避種はその4倍程である。下枝の食痕や新規の樹皮剥ぎは見られないものの、稚樹の食痕率は極めて高いことから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

十勝東部06の結果概況

地区名:TE02芽登

393林班ほ小班

7月06日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ハルニレ・ヤチダモ)	平地	-	1	2	2009年	13.8	累積 4.6 なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	40 /200㎡	34.4 ㎡/ha	21 /200㎡ 食痕: 6/21 29%		4 /200㎡	12/37 32%(22%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	25 /200㎡	18/25	72%			62	19%・53.9・0%

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ヤチダモ	9	2,953		
ハルニレ	6	861	4	4
ウダイカンパ	1	804		
ケヤマハンノキ	1	665	1	
オオモミジ	1	607		
全体	40	6,870	21	12

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	8	
ハシドイ	8	8
ヤマモミジ	5	3
シウリザクラ	4	4
エゾイタヤ	2	
全体	33	20

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
ミヤコザサ	8	0.103	19.0	53.9	
フッキソウ	20	0.084	31.8	26.6	○
オンダ	8	0.070	10.3	50.5	
サップロスゲ	19	0.061	27.7	26.5	○
エナシヒゴクサ	10	0.013	6.4	18.6	
全体		0.377	77.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部06は、幌加美利別林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。平地で、ヤチダモやハルニレなどが見られる。可食種のうち下枝がある立木はハルニレやケヤマハンノキなど21本/200㎡で、食痕はアオダモやケヤマハンノキなど29%を占める。樹皮剥ぎはハルニレやアオダモなど古いものも含めると32%を占める。

稚樹はハシドイやヤマモミジなど25本/200㎡で、食痕は72%と高い値である。林床は、全体被度が77.0%を占め、ササはミヤコザサが生育する。被度では忌避種とされるフッキソウやサップロスゲが高く、食痕も見られる。ササを除く現存量は、可食種は0.01で、忌避種は0.26と大きい。下枝の食痕率は30%近くを占め、稚樹の食痕率、新規の樹皮剥ぎ率も高く、忌避種の現存量が大きいことから、全体にエゾシカの被食による影響が累積している可能性があると思われる。

十勝東部07の結果概況

地区名:TE02芽登

319林班れ小班

8月08日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		平地	-	1	4	2009年 7.8	累積 4.1	足跡・鳴き声・落角
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	27 /200㎡	24.1 ㎡/ha	11 /200㎡ 食痕: 2/11 18%			5 /200㎡	1/15 7%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	3 /200㎡	1/5	20%			15	70%・70.8・5%	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ヤチダモ	3	1,598		
ケヤマハンノキ	2	1,423	1	
トドマツ	5	644	4	
エゾマツ	7	383	7	1
ハリギリ	1	275	1	
全体	27	4,816	22	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	13	
エゾマツ	2	
キハダ	2	
シウリザクラ	2	1
オニグルミ	1	
全体	20	1

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	19	0.528	70.3	70.8	○
トドマツ	1	0.013	2.0	65.0	
フッキソウ	14	0.011	5.3	20.4	
サッポロスゲ	8	0.011	3.8	30.1	
サハリナイトスゲ	6	0.010	3.8	24.0	
全体		0.585	78.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部07は、糠南ダム手前の林道沿いに位置する針広混交林に設定している。平地で、樹冠はヤチダモやケヤマハンノキが優占する。他に、針葉樹のエゾマツやトドマツ、広葉樹のハリギリが見られる。林内には、シカの足跡や鳴き声、落角を確認している。可食種で下枝がある立木はケヤマハンノキなど11本/200㎡あり、食痕はエゾイタヤとヤマモミジに1本ずつ見られ、18%を占める。樹皮剥ぎは古いもののみで7%を占める。

稚樹は、可食種ではキハダなど3本/200㎡と少ない。食痕はシウリザクラに1本見られ、20%を占める。林床は、クマイザサが優占し、食痕も見られる。ササ類食痕率は5%である。他に、忌避種とされるトドマツ、フッキソウ、スゲ類が散生する。ササを除く現存量は、可食種が0.01未満とわずかで、忌避種は0.05である。下枝、稚樹の食痕率が20%程見られ、古い樹皮剥ぎや林床の食痕もわずかに見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

十勝東部08の結果概況

地区名: TE02芽登

307林班そ小班

7月06日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	平地	-	2	4	2009年 7.5	累積 3.6	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	16 /200m ²	26.3 m ² /ha	7 /200m ² 食痕: 1/7 14%		1.5 /200m ²	0/21 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	3 /200m ²	2/5 40%			21	0.97 ・0.05(0.2)・ 0.01	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
アカエゾマツ	3	2,505	2	
ハルニレ	1	1,619	1	
シラカンバ	3	1,189	1	
シナノキ	1	1,012		
オニグルミ	1	855		
全体	31	10,531	18	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	4	2
ナナカマド	1	
全体	5	2

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高	食痕有無
クマイザサ	20	0.908	93.5	96.9	○
ヨブスマソウ	6	0.031	1.6	49.8	
オシダ	1	0.013	1.5	84.0	
フッキソウ	20	0.008	3.7	20.7	
サラシナショウマ	8	0.003	1.0	28.6	
全体		0.968	94.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部08は、芽登川林道沿いに位置する針広混交林に設定している。平地で、針葉樹はアカエゾマツ、広葉樹はハルニレやシラカンバなどが見られる。可食種のうち下枝がある立木は7本/200 m²と少なく、食痕は14%を占める。樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹はシウリザクラとナナカマドの2種で、シウリザクラの2本に食痕が見られ、40%を占める。林床は、全体被度が94.5%を占め、クマイザサが優占し、密生する。食痕は、クマイザサに見られ、ササ類食痕率は20%を占める。その他、忌避種とされるヨブスマソウやオシダ、フッキソウが散生する。可食種の現存量は0.01で、忌避種がその5倍程を占める。樹皮剥ぎは見られないものの、下枝、稚樹、林床の食痕が確認されることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

十勝東部09の結果概況

地区名:TE03鳥取

1062林班い1小班

7月24日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU 頭/人日)		エゾシカの痕跡
溪畔林	斜面	北西	2	2	2009年	5	累積 4.0 個体・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	27 /200㎡	55.0 m ² /ha	17 /200㎡ 食痕: 7/17 39%		3 /200㎡	4/49 8%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	5 /200㎡	3/5	60%			35	76%・57.2・95%

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
オヒョウ	13	6,157	7	1
ダケカンバ	1	5,281	1	
エゾマツ	2	3,852		
シナノキ	5	2,918	2	
ハシドイ	19	1,220	15	3
全体	53	22,018	34	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤマモミジ	4	3
エゾマツ	1	
キタコブシ	1	
トドマツ	1	
全体	7	3

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.431	75.8	57.2	○
オシダ	9	0.030	6.8	36.0	○
コンロンソウ	7	0.008	2.2	27.9	○
ホソイノデ	1	0.006	1.0	57.0	
ムカゴイラクサ	4	0.005	1.6	27.5	○
全体		0.495	84.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部09は、九哩の沢林道沿いに位置する溪畔林に設定している。斜面地形で、樹冠はオヒョウやダケカンバが優占する。林内には、個体の目視、シカ道を確認している。可食種のうち下枝がある立木はオヒョウやハシドイ中心に17本/200㎡あり、食痕はハシドイなど39%に占める。樹皮剥ぎは古いもののみで、オヒョウやハシドイに見られ、8%を占める。

稚樹は、可食種ではヤマモミジやキタコブシなど5本/200㎡が生育し、そのうち60%に食痕が見られる。林床はクマイザサが75%を越え優占し、食痕率は95%を占める。他にオシダやコンロンソウ、ムカゴイラクサにも食痕が見られる。ササを除く現存量は可食種で0.02と小さく、忌避種はその2倍以上を占める。下枝、稚樹、ササ類の食痕率が高く、林床では忌避種も被食されていることから、全体にエゾシカの被食による影響が強くなってきていると思われる。

十勝東部10の結果概況

地区名: TE03鳥取

139林班る小班

7月17日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林(ハルニレ-ヤチダモ)	平地	-	1	4	2009年 5.7	累積 5.7	なし	
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	42 /200㎡	44.7 m ² /ha	22 /200㎡	食痕: 8/22 36%	22 /200㎡	11/42	26%(17%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	8 /200㎡	14/15	93%			20	85%・85.4・0%	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ハルニレ	4	6,367		
タチヤナギ	1	1,301	1	
ハシドイ	33	599	21	11
エゾヤマザクラ	1	257		
ヤチダモ	2	239		
全体	42	8,935	22	11

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハシドイ	11	10
イヌエンジュ	4	4
全体	15	14

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
ミヤコザサ	20	0.707	84.8	85.4	
カブスゲ	5	0.111	12.3	83.6	
ワラビ	7	0.021	3.1	64.6	
カサスゲ	11	0.020	3.1	60.4	
アカンカサスゲ	4	0.003	0.4	56.0	
全体		0.871	98.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部10は、風達第2支線林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。平地で、樹冠はハルニレが優占し、他にタチヤナギ、ハシドイなどが見られる。下枝がある立木はハシドイなど22本/200㎡あり、食痕はハシドイに見られ、36%を占める。樹皮剥ぎもすべてハシドイで、新規のもので17%、古いものも含めると26%を占める。

稚樹は、ハシドイとイヌエンジュの2種のみで、8本/200㎡と少なく、ほぼ全てに食痕があり、93%を占める。林床は、全体被度が98.3%で、ミヤコザサが優占する。他には、忌避種とされるスゲ類やシダ類の被度が上位を占め、食痕はカラマツソウに一部見られる。ササを除く現存量は可食種で0.01未満とわずかで、忌避種は0.16と可食種より多く占める。下枝、稚樹の食痕率、新規の樹皮剥ぎ率が何れも高く、忌避種の割合が高いことから、全体にエゾシカの被食による影響が累積している可能性があると思われる。

十勝東部11の結果概況

地区名:TE03鳥取

112林班ろ小班

7月18日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	平地	-	1	1	2009年 3.7	累積 4.1	個体・足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	27 /200㎡	43.0 m ² /ha	6 /200㎡ 食痕: 0/6 0%		1 /200㎡	1/9 11%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200㎡	0/0 -				38	0.28 ・0.15(0.4)・ 0.06

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
エゾマツ	7	3,646	5	
トドマツ	10	1,532	9	
エゾイタヤ	3	1,503	1	
オノエヤナギ	1	1,035	1	
ヤチダモ	2	356	1	1
全体	27	8,610	20	1

※総BAは胸高直径断面の総和。

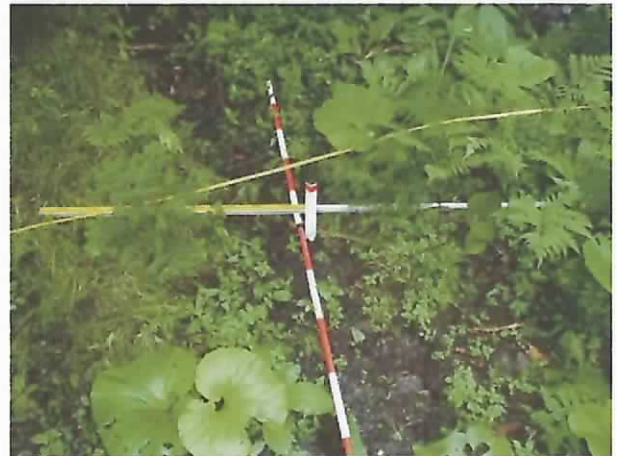
稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
エゾマツ	14	
トドマツ	10	
全体	24	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
ミヤコザサ	12	0.074	27.0	25.8	
クサソテツ	8	0.071	10.5	53.0	
ミズバショウ	5	0.031	7.8	35.6	○
ムカゴイラクサ	8	0.021	11.8	16.9	
エゾメシダ	4	0.014	3.5	38.5	
全体		0.281	75.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部11は、上足寄林道沿いに位置する針広混交林に設定している。平地で、針葉樹はエゾマツとトドマツ、広葉樹はエゾイタヤやオノエヤナギなどが見られる。林内には個体の目視、足跡、シカ道を確認している。可食種で下枝がある立木は、エゾイタヤやオノエヤナギなど6本/200㎡で食痕は確認されなかった。樹皮剥ぎはヤチダモに古い樹皮剥ぎが1本見られ、11%を占める。

稚樹は、エゾマツとトドマツのみで、食痕は確認されなかった。林床は、全体被度が75.3%で、ミヤコザサが優占するが、被度が27%と散生する。食痕はミズバショウに見られる。現存量は、可食種で0.06とわずかにあり、忌避種はその2倍以上で、0.15と比較的大きい。下枝、稚樹の食痕は見られないものの、稚樹の可食種はすべて被食された可能性があり、また林床の現存量の半分が忌避種であることから、全体にエゾシカの被食による影響が累積している可能性があると思われる。

十勝東部12の結果概況

地区名: TE03鳥取

96林班ろ小班

7月18日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山地斜面	北東	2	4	2009年 3.6	累積 5.1	糞・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	26 /200㎡	51.2 ㎡/ha	7 /200㎡ 食痕: 1/7 14%		1.5 /200㎡	4/38 11%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	2 /200㎡	2/4 50%			19	25%・34.1・0%		0.35・0.21(0.2)・0.04

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
シナノキ	13	5,464	2	
トドマツ	4	4,485	3	
ハルニレ	2	2,183		
エゾイタヤ	11	2,030	7	
ヤチダモ	2	1,859		
全体	51	20,474	25	5

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
キタコブシ	4	2

全体	4	2
----	---	---

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
オシダ	14	0.163	26.5	57.4	○
ミヤコザサ	16	0.096	25.0	34.1	
サラシナショウマ	6	0.030	4.5	46.2	
フッキソウ	13	0.023	9.8	22.7	
エゾトリカブト	5	0.014	1.5	73.8	
全体		0.346	68.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部12は、39線沢林道沿いに位置する針広混交林に設定している。山地斜面で、樹冠は広葉樹のシナノキやハルニレ、針葉樹のトドマツが多く見られる。林内には、シカの糞、シカ道を確認している。可食種で下枝がある立木は、シナノキやエゾイタヤなど7本/200㎡と少なく、食痕はケヤマハンノキに見られ、14%を占める。樹皮剥ぎは新規はなく、シウリザクラなどに見られ11%を占める。

稚樹はキタコブシのみで、2本/200㎡と少なく、食痕は50%を占める。林床は、全体被度が68.3%を占め、被度ではオシダとミヤコザサが同程度を占める。忌避種とされるオシダには食痕が見られる。ササを除く現存量は、可食種は0.04、忌避種は0.21で可食種の5倍程を占める。下枝の食痕が見られ、稚樹の食痕も高く、林床現存量では忌避種が優占していることから、全体にエゾシカの被食による影響が強くなってきていると思われる。

十勝東部13の結果概況

地区名:TE03鳥取

68林班ち小班

7月27日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	山地斜面	南東	2	4	2009年 8.2	累積 3.8	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	17 /200㎡	39.0 m ² /ha	9 /200㎡ 食痕: 5/9 53%		1.5 /200㎡	2/26 8%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]
	1 /200㎡	1/1 100%		44	1%・13.0・0%	0.50・0.17(1.9)・0.33	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
カツラ	1	9,503	1	
オノエヤナギ	3	1,694	2	
ケヤマハンノキ	2	1,248	1	
シナノキ	7	935	5	
エゾノバッコヤナギ	1	721		
全体	33	15,617	24	2

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	3	
カツラ	1	1

全体	4	1
----	---	---

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
アキタブキ	11	0.255	29.6	78.6	
エゾイラクサ	9	0.066	8.0	79.1	○
クサソテツ	4	0.038	6.0	60.5	
ムカゴイラクサ	13	0.029	12.5	23.1	○
サラシナショウマ	13	0.029	8.6	29.2	○
全体		0.497	62.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部13は、白愛林道沿いに位置する針広混交林に設定している。山地斜面で、カツラやオノエヤナギなどが見られる。林内では、シカの足跡、シカ道を確認している。可食種は下枝がある立木はシナノキやオノエヤナギなど9本/200㎡と少なく、食痕は53%を占める。樹皮剥ぎはすべて古く、8%を占める。

稚樹は、可食種ではカツラ1本のみで、食痕が見られる。林床は、全体被度が62.0%を占め、アキタブキが優占する。次いで、忌避種とされるエゾイラクサやクサソテツ、ムカゴイラクサが散生し、エゾイラクサやムカゴイラクサ、サラシナショウマは食痕も見られる。ササを除く現存量は、可食種では0.33と大きく、忌避種はその半分ほどである。下枝や稚樹の本数密度が低く、食痕率が高く出ているものの、稚樹については可食種では被食されて残っていない可能性もあり、全体にエゾシカの被食による影響が強くなってきていると思われる。

十勝東部14の結果概況

地区名: TE04足寄

1018林班ち小班

7月24日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面	南	1	3	2009年 3.8	累積 5.0	糞・足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	37 /200㎡	18.6 ㎡/ha	26 /200㎡ 食痕: 7/26 27%		16 /200㎡	1/36 3%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	16 /200㎡	9/24 38%		26	27%・41.1・93%	0.37・0.24(0.1)・0.01	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ヤチダモ	2	1,161		
エゾノバッコヤナギ	1	855	1	
イヌエンジュ	3	548		
トマツ	1	263		
エゾイタヤ	8	227	8	1
全体	37	3,730	26	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

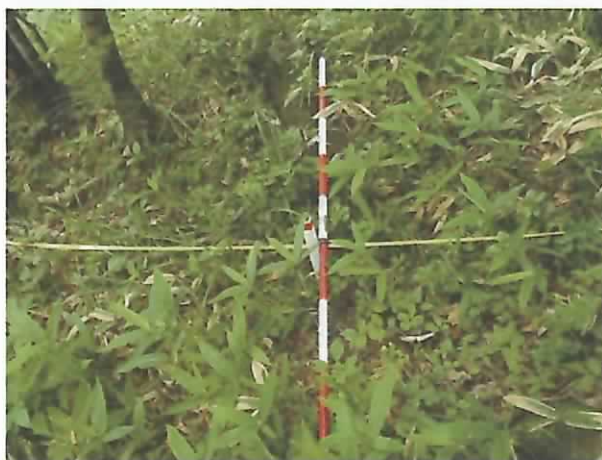
稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
サワシバ	11	3
イヌエンジュ	5	
ハシドイ	5	5
トマツ	2	
ミヤマザクラ	2	
全体	27	9

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
ミヤコザサ	15	0.115	26.6	41.1	○
オンダ	6	0.109	15.5	69.7	○
フッキソウ	19	0.107	34.0	28.4	
コンロンソウ	11	0.014	3.8	25.9	
サッポロスゲ	9	0.009	4.4	19.2	
全体		0.370	78.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部14は、恩根内林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。斜面で、ヤチダモやエゾノバッコヤナギ、イヌエンジュなどが見られる。林内では、シカの糞、足跡、シカ道を確認している。可食種で下枝がある立木は、エゾイタヤやサワシバを中心に26本/200㎡あり、食痕はエゾイタヤなど27%を占める。樹皮剥ぎはエゾイタヤに1本見られるが、古い樹皮剥ぎである。

稚樹はサワシバを中心に16本/200㎡が生育し、サワシバやハシドイに食痕が見られ、38%を占める。林床は、全体被度が78.5%を占め、ミヤコザサやオンダに食痕が見られる。ミヤコザサのササ類食痕率は93%と高く、14方形区で食痕が見られる。ササを除く現存量は、可食種では0.01、忌避種は0.24で、忌避種の割合が高い。新規の樹皮剥ぎは見られないものの、下枝、稚樹の食痕率は高く、またササ類食痕率も9割を超え、忌避種の割合が高いことから、全体にエゾシカの被食による影響が強く出てきていると思われる。

十勝東部15の結果概況

地区名: TE04足寄

77林班わ小班

7月09日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林(エゾイタヤ-シナノキ)		山地斜面	西	1	2	2009年	7.9	累積 5.9	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	65 /200㎡	42.7 ㎡/ha	25 /200㎡ 食痕: 7/25 28%			27 /200㎡	9/62 15%(3%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	53 /200㎡	14/53	26%			38	7%	45.3	0%

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
エゾイタヤ	19	1,778	10	
ミズナラ	2	1,561		
シナノキ	3	1,125		
ハリギリ	2	1,053		
チョウセンヤマナラシ	1	1,018		
全体	65	8,541	28	11

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
イヌエンジュ	30	5
ミズナラ	10	1
ミヤマザクラ	5	3
シウリザクラ	4	4
チョウセンヤマナラシ	3	
全体	54	14

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
ミヤコザサ	15	0.311	49.5	61.3	
イヌエンジュ	8	0.006	1.3	37.4	○
フッキソウ	17	0.002	1.3	14.1	
タガネソウ	10	0.002	1.2	12.5	○
サッポロスゲ	10	0.001	0.6	20.9	
全体		0.043	52.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部15は、ハヤトの沢林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地斜面で、樹冠はチョウセンヤマナラシやハリギリ、ミズナラが占め、低木、亜高木層にエゾイタヤが多く見られる。可食種のうち下枝がある立木はエゾイタヤを中心に25本/200㎡生育し、食痕は28%を占める。樹皮剥ぎは古い樹皮剥ぎを含めると15%を占める。

稚樹は、イヌエンジュを中心に53本/200㎡と比較的多く、食痕は26%を占める。林床は、全体被度が52.5%で、ミヤコザサが50%程の被度があり、優占する。イヌエンジュやタガネソウ、エゾイタヤに見られる。ササを除く現存量は、可食種、忌避種ともに小さく、同程度である。下枝、稚樹の食痕率が高く、新規の樹皮剥ぎも見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が強くなってきていると思われる。

十勝東部16の結果概況

地区名: TE04足寄

34林班り小班

8月07日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(サワシバ・ヤマモミジ)	山地斜面	南東	1	4	2009年	7.9	累積 5.1 シカ道・鳴き声
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)
	37 /200㎡	40.7 m ² /ha	20 /200㎡ 食痕: 2/20 10%		11 /200㎡		6/36 17%(8%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	6 /200㎡	5/11 45%		33	9%	・29.5・ 6%	0.26 ・0.21(0.1)・ 0.02

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ヤチダモ	4	3,198		
エゾイタヤ	7	1,433	5	2
サワシバ	6	1,058	3	
ハルニレ	1	1,001		
イヌエンジュ	1	380		
全体	37	8,145	20	6

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤマモミジ	7	5
ハシドイ	2	
イヌエンジュ	1	
ミズナラ	1	
全体	11	5

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高	食痕有無
フッキソウ	20	0.192	62.5	30.5	
ミヤコザサ	16	0.026	8.6	29.5	○
タツノヒゲ	4	0.010	1.9	39.0	
コバノイラクサ	2	0.006	1.5	36.5	
サップロスゲ	7	0.005	2.8	19.9	
全体		0.258	76.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部16は、クオベツ林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地斜面で、樹冠はヤチダモやハルニレが見られる。林内では、シカ道や調査中に鳴き声を確認している。下枝がある立木は20本/200㎡あり、食痕はサワシバとハルニレに見られ、10%を占める。樹皮剥ぎは、新規がエゾイタヤとハシドイに1本ずつ見られ8%を占め、古い樹皮剥ぎを含めると17%を占める。

稚樹はヤマモミジを中心に6本/200㎡と少なく、ヤマモミジに食痕が見られ、45%を占める。林床は、全体被度が76.5%で、フッキソウの被度が60%を越え、優占する。ササはミヤコザサで食痕も見られ、6%を占める。ササ類を除く現存量は、可食種では0.02と小さく、忌避種は0.21で可食種より高い値である。稚樹の食痕率が高く、新規の樹皮剥ぎも見られ、忌避種の現存量が高いことから、全体にエゾシカの被食による影響が累積している可能性があると思われる。

十勝東部17の結果概況

地区名:TE04足寄

13林班け小班

7月08日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ハルニレ・ヤチダモ)	平地	-	2	4	2009年 12.2	累積 5.1	個体・足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	16 /200㎡	33.3 ㎡/ha	7 /200㎡ 食痕: 1/7 8%		1.5 /200㎡	6/32 19%(3%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	6 /200㎡	9/11 82%	58				

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ハルニレ	9	7,320	3	
エゾノキヌヤナギ	10	3,738	4	
ヤチダモ	5	1,175	1	3
ケヤマハンノキ	1	499	1	
シナノキ	1	398		
全体	32	13,315	13	6

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤマモミジ	8	7
トドマツ	5	
サワシバ	1	1
ハシドイ	1	1
ヤチダモ	1	1
全体	16	10

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クサソテツ	9	0.209	23.6	78.4	
フッキソウ	20	0.140	52.9	24.6	
ミヤコザサ	15	0.074	20.5	33.5	
ムカゴイラクサ	20	0.028	14.9	19.8	○
ハンゴンソウ	2	0.017	1.1	109.5	
全体		0.523	91.6		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部17は、フーチャシナイ林道に位置する広葉樹林に設定している。樹冠はハルニレが優占し、次いでエゾノキヌヤナギが多く見られる。林内では、個体の目視、足跡、シカ道を確認している。下枝がある立木はハルニレなど7本/200㎡と少なく、食痕はハシドイに1本見られる。樹皮剥ぎは、新規はハシドイに1本見られ、古い樹皮剥ぎを含めると19%を占める。

稚樹はヤマモミジなど6本/200㎡と少なく、食痕率は82%と高い値である。林床は、全体被度が91.6%に見られ、忌避種とされるクサソテツやフッキソウが優占し、食痕はムカゴイラクサに見られる。ササを除く現存量は、可食種では0.03と小さく、忌避種が多く占める。稚樹の食痕率が高く、新規の樹皮剥ぎが見られ、忌避種の割合が高いことから、全体にエゾシカの被食による影響が累積している可能性があると思われる。

十勝東部18の結果概況

地区名:TE05本別

149林班た小班

7月07日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(アサダ・ハシドイ)	山地斜面	北西	1	4	2009年 8.9	累積 4.9	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	83 /200㎡	22.3 ㎡/ha	48 /200㎡	食痕: 3/48 6%	41 /200㎡	3/83	4%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	10 /200㎡	5/19	26%	13	84%・70.1・0%	0.59	・0.00(1.1)・ 0.00

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	2	1,441		
アサダ	24	1,380	16	
ハシドイ	36	609	20	2
ハルニレ	3	417		
ヤチダモ	4	221	1	
全体	83	4,456	48	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハシドイ	12	6
ミズナラ	5	
イヌエンジュ	1	
シナノキ	1	
全体	19	6

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
ミヤコザサ	20	0.591	84.0	70.1	
フッキソウ	14	0.002	1.1	15.6	
イヌエンジュ	1	0.001	0.3	30.0	
オシダ	1	0.000	0.1	13.0	
ハクモウイノデ	1	0.000	0.1	12.0	
全体		0.593	84.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部18は、歩道の沢林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地斜面で、樹冠はミズナラが優占し、他にアサダやハシドイが多く見られる。下枝がある立木はアサダやハシドイを中心に48本/200㎡と比較的多く、その6%に食痕が見られる。樹皮剥ぎについても、ハシドイとヤマグワに古い樹皮剥ぎが見られ、4%を占める。

稚樹は、ハシドイやミズナラなど10本/200㎡と少なく、そのうち26%に新規の食痕が見られる。林床は、全体被度が84.0%で、ミヤコザサが優占する。次いで忌避種とされるフッキソウが多く見られ、イヌエンジュやオシダなどが散生する。ササを除く現存量は、可食種、忌避種ともに0.01未満と小さく同程度である。新規の樹皮剥ぎは確認されなかったものの、下枝、稚樹の食痕が見られ、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

十勝東部19の結果概況

地区名:TE05本別

218林班へ小班

8月07日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ハルニレーヤチダモ)	平地	-	2	4	2009年	5	累積 4.7 なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	20 /200㎡	23.1 m ² /ha	10 /200㎡ 食痕: 5/10 47%		6 /200㎡	13/39 33%(5%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]
	0 /200㎡	0/0 -			23	0% - -	0.22 ・0.20(0.1)・ 0.02

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ハルニレ	12	8,361	2	4
ヤマモミジ	7	246	3	3
ハシドイ	8	224	6	4
エゾイタヤ	8	223	5	2
アサダ	3	173	2	
全体	39	9,243	19	13

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
エゾマツ	1	1

全体 1 1

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(m ² /m ²)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クサソテツ	11	0.072	15.0	45.3	○
エゾトリカブト	10	0.042	5.8	66.6	
コバノイラクサ	9	0.030	12.0	24.4	
アオミズ	9	0.029	15.5	17.0	
フッキソウ	17	0.017	8.3	19.4	
全体		0.222	54.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部19は、道道本別・本別停車場線沿いに位置する広葉樹林に設定している。平地で、樹冠はハルニレが優占し、低木層、亜高木層にヤマモミジやハシドイなどが多く見られる。下枝がある立木はハシドイやエゾイタヤなど10本/200㎡あり、食痕は47%に見られる。樹皮剥ぎは、古い樹皮剥ぎを含めると33%を占める。

稚樹は、忌避種とされるエゾマツの1本が見られ、食痕も見られる。林床は、全体被度が54.5%で、忌避種とされるクサソテツやエゾトリカブト、コバノイラクサなどが優占上位を占め、散生する。ササを除く現存量は、可食種は0.02とわずかで、忌避種は0.20と大きな値となっている。下枝の食痕率が高いことや、可食種の稚樹やササが見られず、忌避種が優占すること、新旧の樹皮剥ぎ率が高いことから、全体にエゾシカの被食による影響が累積している可能性があると思われる。

十勝東部20の結果概況

地区名:TE05本別

202林班わ小班

7月09日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	山地尾根	北西	1	1	2009年 2.8	累積 4.2	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	24 /200m ²	40.0 m ² /ha	10 /200m ²	食痕: 1/10 10%	5 /200m ²	0/22	0%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	120 /200m ²	4/60 7%	39		36%・53.1・0%	0.44	・0.12(1.1)・

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	18	7,201	6	
シラカンバ	2	784		
イヌエンジュ	3	15	3	
ホオノキ	1	3	1	
全体	24	8,002	10	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ミズナラ	32	2
イヌエンジュ	8	
エゾヤマザクラ	7	2
ミヤマザクラ	7	
ハリギリ	4	
全体	60	4

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高	食痕有無
ミヤコザサ	20	0.195	36.0	53.1	
エゾウラジロハナヒリノキ	13	0.040	6.9	45.5	○
ヤマウルシ	20	0.037	7.4	41.7	○
エゾムラサキツツジ	7	0.032	3.3	85.6	○
イヌエンジュ	3	0.026	2.5	96.0	
全体		0.437	61.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区十勝東部20は、貴呂路林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地尾根で、ミズナラが優占する。下枝がある立木はミズナラやイヌエンジュなど10本/200m²と少なく、食痕はミズナラ1本に見られ、10%を占める。樹皮剥ぎは、確認されなかった。

稚樹はミズナラを中心に、120本/200m²と密度が高く、そのうち7%に新規の食痕が見られる。林床は、全体被度が61.0%で、ミヤコザサが優占する。他に、エゾウラジロハナヒリノキやヤマウルシ、エゾムラサキツツジなどが散生し、食痕は、先の3種に加え、エゾヤマザクラに見られる。ササを除く現存量は、可食種では0.12で、忌避種は0.13と同程度で、大きな差は見られない。樹皮剥ぎは見られず、下枝、稚樹、林床の食痕がわずかに見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。